

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高い理想、深い叡智、重い使命を抱きつつ、次世代を牽引する真のグローバルリーダーを育成する学校をめざす。

- 1 知・徳・体の調和のとれた人間を育成するとともに、社会に貢献する志を持った、グローバルリーダーを育てる学校。
- 2 夢や志を実現できる確かな学力と探究力（自ら課題を発見し解決する能力）を身につけさせるとともに、生徒の進路希望の実現を図る学校。
- 3 三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）を育むとともに、周りに気を配り支える心・人権尊重の精神を涵養する、安全・安心な学校。
- 4 機動的な学校運営体制を一層充実させ、教職員のたゆまぬ資質・能力の向上に取り組み、教育活動をはじめとする様々な活動の充実・活性化を図る学校。

2 中期的目標

- 【1】 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成
- (1)GLHS(グローバルリーダーズハイスクール)、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGP(スーパーグローバルプログラム:SGHの成果を踏まえた独自の取組み)、WWL(ワールドワイド・ラーニング)連携校にふさわしい「志学」や「キャリア教育」の推進
- ア 進路意識の醸成：LHR等で、社会の第一線で活躍する人材を有する同窓会等と連携し、大学等での最先端の学問や研究、仕事の最前線に触れさせる。
- ※ 学問研究に対する生徒の夢を育み、将来の進路選択への意識を高める「三丘セミナー」、「体感三丘セミナー」「体感校外学習」等の実施【毎年20講座以上：R1 42講座、R2 12講座、R3 11講座】【生徒満足度90%以上：R1 93%、R2、R3（「三丘セミナー」のみ実施の為、R1との比較可能なデータ無し）】。
 - ※ 「CS(Creative Solutions:創造的課題解決)探究」や大学のオープンキャンパスなどを活用した、学部や進路の選択支援。
 - ※ 新大学入試や新学習指導要領につながる本校にふさわしい3年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムの充実。
- イ 高い志の育成：三丘セミナー、大学訪問、医療系職場体験プログラム等により、SGU(スーパーグローバル大学)等の見学会・体験事業を通じて社会に貢献する高い志や目標意識を育む。
- ※ グローバルリーダーとして高い志を育成するための進路講演会・懇談会の充実
 - ※ SGU等の研究室訪問・見学会（年5回以上）、京大・阪大等の訪問・見学、東京方面キャンパスツアーなどによる、志の高いキャリア目標の醸成【生徒の満足度90%以上：R1 89.1%、R2 85.4%、R3 91.6%】。
 - ※ 医療現場と連携した、医師・看護師などの医療系職場体験や医学部見学による、医療系進路への志育成。【医学部等進学希望者の参加30人以上：R1 23人、R2、R3未実施】
- (2)国際感覚の醸成とグローバルリーダーの育成
- ア グローバルリーダーの育成：GLHS、SSH、SGP、WWL連携校にふさわしい国際感覚や英語力を育成する
- ※ 3年間を見据えた「4技能を育成する英語授業」の構築・実施、内容の充実と、4技能を育成する英語授業の英語科全体で取り組む体制の開発・構築。【「コミュニケーションに必要な英語を学ぶ機会がある」生徒肯定的評価70%以上：R1 83.8%、R2 82.2%、R3 82.3%】
 - ※ 英語4技能型の外部試験(GTEC、TOEFL iBT等)の受験勧奨・支援。海外進学支援【海外の大学等への進学者1名以上：R1 4人、R2 2人、R3 3人】
 - ※ 「CSI・Ⅱ・Ⅲ」やSSH、SGPカリキュラムにより、「国際機関の現状と使命」や「世界の最新の知見」等を学ばせ、学習意識を高め、グローバルリーダーの素養の育成。【GLHS生徒卒業時アンケート「社会の役に立てる人」「世界で活躍できる人」各60%以上：R1 71% 66%、R2 67% 62%、R3 75% 65%】
- イ 国際感覚の育成：国際交流企画の実施・充実により、実際に見、聞き、感じることから国際感覚を醸成する
- ※ アメリカ・スタディツアー(リーハイ大・NY、NASA・FIT)やフィリピン・リーダーシップ研修、オーストラリア・スタディツアー、海外修学旅行(H28年以降台湾)など、海外研修等の実施、内容の充実【各海外交流企画生徒満足度90%以上：R1 99%、(オンライン実施)R2 94.7%、R3 100%】
【「国際交流に関する取組みが充実している」の生徒・保護者肯定的評価80%以上：(生徒)R1 91.3%、R2 81.8%、R3 70.8%(保護者)R1 89.2%、R2 75.5%、R3 54.8%】
 - ※ 海外からの交流生徒・短期留学生の受け入れ・交流の推進・充実【受入れ30人以上を維持：R1 105人、R2 受入れ無し、R3 受入れ無し】
- 【2】 確かな学力・探究力の向上と進路希望の実現
- (3) 質の高い授業による確かな学力・探究力向上
- ア 質の高い授業の提供：真のグローバルリーダーにふさわしい確かな学力・探究力の育成のため、教材、授業方法、自学自習方法の研究・開発を行う。
- ※ アクティブラーニング・双方向授業等のための新たな教材、授業方法の研究・開発・蓄積【学校教育自己診断：授業満足度（生徒80%以上、保護者60%以上）：(生徒)R1 76.6%、R2 77.6%、R3 83.2%(保護者)R1 62.7%、R2 62.6%、R3 62.2%】
 - ※ 「CS探究Ⅰ・Ⅱ」(課題研究)や発表大会の実施・充実【生徒満足度80%以上：R1 93%、R2 93%、R3 91.5%】
 - ※ 教科指導力の向上に向けた、先進校の視察・報告等による研修会、研究・公開授業、相互授業見学などの実施。【年7回以上の授業公開（外部公開含む）・研修会：R1 6回、R2 1回、R3 1回】
- イ 学力向上の取組み：学力向上と学習意欲の向上を図る授業以外の機会・場・方法の工夫創出・支援指導を行う。
- ※ 「三丘スタディーハード」・「実践的な科学実験」の実施・充実
 - ※ 1・2年生で効果的な授業の受け方の習得、自学自習力の向上、講習会の実施・充実【スタディサポートなどの結果向上】
 - ※ 基礎的、基本的な学力の向上のための読書量、読書時間の確保。【読書量増加に向けた取組みの実施 1年間の読書冊数5冊以上】
- (4) 進路希望の実現：生徒自らが適切な進路を選択できるための指導・支援と志望力を一層高めるため、進路指導体制を強化・充実する。
- ※ 生徒の進路意識の醸成のため、進路交流会などを利用した、卒業生等による学習・進路相談の充実。【年間5回以上：R1 11回、R2 8回、R3 8回】
【進学指導に対する生徒の満足度80%以上：R1 89.1%、R2 85.4%、R3 91.6%】
 - ※ 進路指導・進路ホームルームの充実と3年間を見通したキャリア教育プログラムの進化・深化。【国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、府大、医学部医学科）現役進学者40%以上：R1 28.3%、R2 40.7%、R3 38%】
- 【3】 基本的な生活習慣の確立と自主自立・人権尊重の精神の涵養
- (5) 生活習慣の確立と三丘スピリットの育成：自己をコントロールし、規範ある集団生活を営むことができるよう、「集中と切替え」ができる態度を養う。
- ※ 集会やHR等で啓発することなどによる、時間をコントロールできる意識・習慣の醸成。【年間遅刻総数1000未満：R1 2168件、R2 2380件、R3 2139件】
 - ※ 部活動や学校行事を通じて、「三丘スピリット」のもと、豊かな人間性とリーダーに必要な資質・態度の育成。【部活動加入率90%以上：R1 94.4%、R2 97.9%、R3 95.3%】
 - ※ 生徒の悩みや不安などに対応するため、カウンセリングやコーチングについての研修などによる、教育相談やカウンセリング機能を充実。【「カウンセリング等を受けることができる」70%以上：R1 64.7%、R2 71.5%、R3 72.4%】
- (6) 人権尊重の教育推進：情報リテラシー育成など今日的課題をふまえつつ、グローバルリーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養し、あらゆる場面で人権教育を推進する。
- ※ 各学年または学校として、年1回以上の人権講演会および人権HR等による、人権意識の涵養。【「人権などについて学習する機会がある」生徒肯定的意見50%以上：R1 86.7%、R2 84.0%、R3 79.2%】
 - ※ 今日的課題を含めての研修や、人権教育推進委員会と学年・分掌などの恒常的な連携による、全教職員の情報共有、課題解決に向けた取組み。【研修等年1回以上：R1 1回、R2 1回、R3 1回】
- 【4】 機動的な学校の運営体制の充実、開かれた学校づくり、教職員の資質・能力の向上
- (7) 機動的学校運営：学校経営計画の学校の目標や取組みを共有・実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげるため、組織的・機動的な学校運営を行う。
- ※ 評価・育成システムにおける教職員個々の設定目標を学校経営計画と連携・関連させた、進捗状況での支援、達成状況における確認。【各教職員の目標達成状況】
 - ※ ICT環境の整備・充実と機動的な情報伝達による一層の情報共有化・業務の省力化を図り、ICT統合及び校務処理システムの円滑な実施。【「校務のICT化推進」教職員肯定70%：R1 77.8%、R2 81.3%、R3 97.1%】
 - ※ “働き方改革”を踏まえた取組みに向けて、「主体的で対話的な、深い“しごと”」を意識し、より効率的・効果的な業務執行・組織運営。【「職員会等が情報交換・課題検討の場として有効に機能している」教職員R1 58.3%、R2 59.4%、R3 58.8%】

（8）安全・安心で開かれた学校：安全で安心できる学校であるため、緊急事態発生時の対応や危機管理体制を整備・実践する。 ※ 管理職自らが率先して校内・校外を見回るなどによる、危険箇所や整備の必要な施設・設備の把握、改善。 【「学校は様々な危険防止に取り組んでいる」生徒評価75%以上：R1 77.7%、R2 77.9%、R3 80.9%】 ※ 登校指導時・各授業時間等における、生徒の状況や課題の把握、教職員間の情報交換・連携指導。教育相談機能の充実。【学期1回情報交換会、ケース会議の開催】 ※ 保護者や地域との連携、及び、Webページを通じた教育活動等の発信。 【「学校は、保護者から意見をきく機会を多く持っている」に対する否定的意見が15%以下：R1 15.8%、R2 21.1%、R3 21.6%】 （9）教職員の資質・能力の向上：「真のグローバルリーダーを育てる」学校の一員として、常により高みをめざす教職員を育成する。 ※ 若手教員の勉強会「三究会」を中心に、ベテラン教員からの知識・技術の伝授、国や府の事業も活用した研修等により、若手教員の育成を図る。 【年間5回以上の研修：R1 5回、R2 5回、R3 5回】 ※ 授業力向上などをめざし、校内研究授業を学期ごとに開催するとともに、先進校や教育産業等が主催する研修等への参加勸奨・支援。 【年間延べ50人以上：R1 58人、R2 24人、R3 16人】 ※ GLHS、SSH等の研究・開発に積極的に取り組むことによる、先進的な取り組みや最先端の研究の本校教育への活用。【GLHS、SSH事業の評価】

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒】 全23項目中6項目で過去5年間で最高の肯定率。中でも以下の3項目は否定的意見も過去5年間で最も少ない。 質問①「学校生活は楽しく、入学して良かった」肯定91.9%、否定5.3% 質問⑤「必要な進路情報の提供や卒業生との進路交流会の開催など、適切な進路指導を行っている。」肯定92.4%、否定5.1% 質問⑩「三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。」肯定86.4%、否定7.5% 〈分析〉 質問①は全校共通の質問。本校教育活動全体に対し非常に高い評価を得ていると分析している。質問⑤を学年別に見ると1年生の肯定率が最も高い。本年度から進路指導プログラムを改訂したことが奏功しているのではないかと分析している。質問⑩は“ホンモノに触れさせる”という本校教育のコンセプトが生徒に伝わっていることを示す結果であると分析している。 【保護者】 全26項目中7項目で過去5年間で最高の肯定率。中でも以下の3項目は否定的意見も過去5年間で最も少ない。 質問⑩「学校は、保護者からの意見を聴く機会を持っている。」肯定73.3%、否定15.2% 質問②「学校は、教育活動について、情報提供の努力をしている。」肯定82.3%、否定10.1% 質問②「学校はGoogle Workspace(classroomなどのアプリ群)やchrome bookなどのICTを活用している。」肯定94.3%、否定5.7% 〈分析〉 本校では生徒向けにclassroomを活用した情報提供、保護者向けには連絡用アプリケーションを使った情報提供を行っており、その頻度も年々高くなってきている。質問②と②の結果はこれらの取組を反映したものであると考える。質問②については、積極的なPTA活動の成果がPTAホームページ等を通じて周知されたことが影響しているのではないかと思われる。 【教職員】 全39項目中20項目で過去5年間で最高の肯定率を示している。中でも以下の項目は対前年度比上昇率が%を超えている。 質問⑧「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。」肯定率96.3%、前年度比16.9P向上 質問②「学校経営に、校長のリーダーシップが発揮されている。」肯定率96.3%、前年度比34.5P向上 質問②「学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある。」肯定率88.9%、前年度比21.3P向上 質問③「私は、管理職が教育活動に必要な情報を積極的に収集し、教職員への情報提供に努めていると思う。」肯定率100.0%、前年度比26.5P向上 〈分析〉 質問⑧と③は、職員会議ごとに校長が教員研修を行っていることやいじめ対策委員会でいじめ認定を進めていることが評価されたものと分析している。質問②は、毎月安全衛生委員会を開催し、その結果を具体的な施策として学校運営に反映させていることが影響していると思われる。質問②はコロナ感染症対策など場面場面での迅速な判断や教職員の意見を取り入れた学校運営が評価されたものとする。	第1回学校運営協議会：7月1日（金） ○ SGHやSSH、部活動などで活躍できる生徒がいることが三国丘高校の強みであり、そんな生徒が卒業後にどのようなキャリアに進んだのかという情報を受験生（中学生）にアピールすることが今後の三国丘高校にとって重要。 ○ SSHの取組を進める中で実験装置等のハード面で困ったときは近隣の大学に相談するのも一つの方法。力を貸してくれる大学は多いはず。 ○ コロナ禍中にあっても教員が三国丘高校生のロールモデルを積極的に語れば、生徒もそれを意識して頑張るのではないかな。 第2回学校運営協議会：10月12日（水） ○ 自分のことは自分で律して、自由な雰囲気の中で自分の能力や個性を出していく、それが三国丘の生徒（三丘生）なのではないかと思う。そんな環境だからこそ、型にはめられた未来ではなく、より広い可能性を持った将来が見えてくるのだと思っている。そういった意味から、スクール・ミッションの中に三丘スピリットという文言が含まれていることは高く評価できる。 ○ 三国丘には三丘セミナーなど生徒が様々な気づきを得られる機会が用意されている。スクール・ミッションの中にも、生徒に気づきを与え、興味関心や将来の選択肢を広げるための教育を実践するといった意味合いの目標があれば良いと思う。 ○ 三国丘では部活動と勉強の両立ができていると思う。そこに三国丘の学校力を感じる。 第3回学校運営協議会：2月10日（金） ○ 学校教育自己診断結果のうち人権教育に関する肯定率が昨年度に比べて下がっている。これについては、人権講演会等人権学習の実施時期が影響しているという説明があったが、この影響を少なくするためには、この質問項目の意図をよく説明したうえで調査を実施する必要があるのではないかな。そうすれば、人権講演会の前であっても、学校としての人権学習計画をもとに正しい評価ができるのではないかな。 ○ 授業観察をしたが、どの教員も工夫をしていると感じた。大学ではICT活用がスタンダードになっているが、大事なのは生徒の授業満足度だと思う。 ○ 昔の三国丘には尖がっている（ある分野に特に優れた能力を持っている）生徒や教員がいた。尖がった生徒を育てようと思えば、尖がった教員が必要なのではないかな。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 3 年度値]	自己評価
1 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する取組みの推進	(1)GLHS、SSH、SGP、WWL 連携校にふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進する ア 進路意識の醸成 イ 高い志の育成 (2)国際感覚の醸成とグローバルリーダーの育成 ア グローバルリーダーの育成 イ 国際感覚の育成	① 三丘セミナー等の充実。 ② 探究的学習「CS 探究」、体感三丘セミナー充実。 ③ 科学の最前線にふれる機会として「東京方面キャンパスツアー」を実施。 ④ 新大学入試や新学習指導要領につながる進路・キャリア教育のプログラム充実・改訂。 ⑤ 進路講演会・懇談会などの取組み充実。 ⑥ 東大・京大・阪大等研究室訪問・見学等実施。 ⑦ 医師・看護師などの医療系職場体験や大学医学部見学を実施し、医療系進学者勸奨・支援。 ⑧ 学習意識高揚、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップ育成のため、ネイティブ教員による授業や海外事前研修実施。 ⑨ 3年間を見据えた4技能を育成する英語授業の構築と内容の充実。 ⑩ 英語教育の充実を図るとともに4技能型の外部試験の受験支援・勸奨。 ⑪ オーストラリア・スタディツアー、アメリカ・スタディツアー、フィリピン・リーダーシップ研修、海外修学旅行を実施。 ⑫ 海外交流生徒・短期留学生の積極的受入れ。	① 20 講座以上を維持 [11 講座] ② 満足度 85%以上 [CS I 93%、CSII 90%] ③ 満足度 85%以上 [実施せず] ※R1 は 100%、R2 は未実施 ④ 3 年計画の進路プログラム充実 ⑤ 実施回数年 8 回以上 [15 回] [Web 開催 1 回] ⑥ 実施回数年 8 回以上 [3 回] 「適切な進路指導」生徒評価 85%以上 [91.6%] ⑦ 三丘セミナーにおいて医療系進学者に対する支援を実施 [体験及び見学は実施せず] ・医療系進学者の 5 %増加 [23 人（浪人含む）] ⑧ 事前研修満足度 80%以上 [100%] ・海外進学 1 人以上 [3 人] ⑨ 授業満足度 80%以上 [82.3%] ⑩ 英検 2 級以上取得者 30 名以上[318 名] ・「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価 75%以上[82.3%] ⑪ 参加生徒満足度 90%以上(R3 リーハイ大学オンライングローバル授業実施 (100%) ⑫ 交流生受入れ 30 名以上、またはオンライン交流 1 回以上 [オンライン交流 1 回 6 名] ・「国際交流に関する取組み充実」肯定的評価 80%以上 [生徒 70.8% 保護者 54.8%]	① 三丘セミナー等講座数 11 回 Δ ② 満足度[CS I 88%、CSII 88% 物理体感（東京）100%] ○ ③ 物理体感校外学習の一部として実施 満足度 100% ◎ ④ 改訂完了 ○ ⑤ 実施回数 18 回 ◎ ⑥ 実施回数 9 回 ○ 生徒評価 92.4% ◎ ⑦ 見学会等開催 2 回 ○ 三丘ドクター38 回 ○ 医療系進学者 21 人 Δ ⑧ 事前研修満足度 100% ◎ 海外進学者数 0 人 Δ ⑨ 英語授業満足度 80% ○ ⑩ 英検 2 級以上 545 名（新規取得者 61 名） ◎ 肯定的評価 80.0% ○ ⑪ 参加生徒満足度 リーハイ大学 100% オーストラリア：97% ◎ フィリピン：中止 ⑫ 交流生受入数 1 校 34 人 ○ オンライン交流 0 校 Δ 肯定的評価 向上 ○ [生徒 73.8%、保護者 64.1%]
	(3)質の高い授業による確かな学力・探究力向上 ア 質の高い授業の提供 イ 学力・探究力向上の取組 (4)進路希望の実現	① GLHS・SSH指定校・WWL 連携校として生徒の学力をしっかりと伸ばす教科・科目の教材開発、授業方法の研究。 ② 生徒自学自習（家庭等での学習）時間を 2 時間以上とする工夫・取組み。 ③ 授業アンケートや研究授業を活用した授業力向上。 ④ 学力向上と学習意欲向上のため、1・2 年生の学年早期に授業および自学自習勉強法指導 ⑤ 課題研究（CS 探究）をイノベーション人材育成の観点から一層充実（SDGs を視野に入れて） ⑥ 基礎的、基本的な学力を高めるため「読書記録」や「図書だより」により読書指導を充実 ⑦ 実力テスト・模擬テストの振り返り・結果分析の整理・充実。 ⑧ 発展的専門的な学習を望む者には「三丘スタディーハード（進学講習）、三丘ドクター（医学部等）」、成績不振者には「成績不振者講習」を実施。 添削等個人指導の実施 ⑨ 学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成のため、卒業生との進路交流等の開催。 ⑩ 生徒自らによる適切な進路選択、大学への志望力を高めるための進路指導体制強化、“進路育成プログラム”の充実。	① 校内外授業公開・保護者向け授業公開計 6 回以上実施。[1 回] 研究の質を高めるための取組みについて学識者等との連携を図る。 ② 1、2 年生 1 日 2 時間以上自学自習する割合 50%以上 [65% 1 年 70%、2 年 60%] ③ 授業アンケート 授業満足度 80%以上[91.4%] ④ 授業・自学自習勉強法指導を実施、学習指導強化週間の実施 [三丘エクセレンス 12 回] ⑤ 生徒満足度 85%以上 [CS I 93%、CSII 90%] 生徒 1 人 1 台端末の活用を進め、デジタル能力の育成を図る。 ⑥ 1、2 年：1 年間に 5 冊以上読書 [1 年 18 作品、2 年 10 作品] ⑦ 振り返り・結果分析方法、指導方法の策定 [業者模試後の分析会 9 回] ⑧ 三丘スタディーハード・ドクター200 回以上 [279 回] 成績不振者講習 60 回程度 [81 回] 添削等個人指導の延べ人数 [国語科 219 人、英語科 313 人、合計 532 人] 国公立大現役合格者数増加 [210 人] ⑨ 卒業生との懇談・相談会の年間 5 回以上 [7 回] ⑩ 本校の進学指導に対する生徒の満足度 80%以上 [91.6%] 模試等分析会への参加により進路指導力向上を図る。[9 回]	① 校内外授業公開 8 回 ○ （保護者向け授業公開 1 回） ② 2 時間以上自学自習割合○ 52% [1 年 47.7% 2 年 57%] ③ 授業満足度 89% ○ ④ 三丘エクセレンス 24 回 ○ ⑤ 満足度[CS I 88%、CSII 88%] ○ ⑥ 冊数[1 年 16 冊 2 年 13 冊] ◎ ⑦ 分析会 12 回 ○ ⑧ 実施回数 201 回 ○ 講習回数 91 回 ◎ 個人指導回数延べ 559 人 （国語 290 人英語 269 人） 国公立現役合格者数 176 人 Δ ⑨ 懇談・相談会回数 7 回 ○ ⑩ 満足度 92.4% ○ 模試分析会参加 12 回 ○
3 自主自立・人権尊重の精神の涵養	(5)生活習慣の確立と三丘スピリット育成 (6)人権尊重の教育推進	① 遅刻指導の徹底、遅刻防止支援。 ② 部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度育成。 ③ 豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養うため、各種の行事や部活動を通じた指導。 ④ 人間関係の構築などの今日的課題をふまえつつ、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養。 ・人権教育推進委員会と学年や分掌が連携し、恒常的な情報交換を行う。	① 遅刻件数年 1000 件以内 [2139 件] 学級委員の活動の活性化を図る。 ② 1、2 年生の部活動加入率 95%以上を維持 [95.3%]、行事満足度 80% [95.4%] ③ 挨拶運動年 2 回以上、リーダー研修年 1 回以上実施 [挨拶運動 2 回、リーダー研修 11 回] ④ 各学年、年 1 回以上人権講演会、人権 HR 実施[各学年 1 回実施] ・学校教育自己診断（生徒）「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」60%以上 [79.2%]	① 遅刻件数 3,509 回 Δ ② 部活動加入率 96.5% ○ ③ 挨拶運動 2 回 ○ リーダー研修 12 回 ○ ④ 人権講演会各学年 1 回 ○ 人権HR 各学年 1 回 ○ 人権教育肯定率 62.9% ○

府立三国丘高等学校

4 機動的な学校運営体制の充実と教職員の資質・能力の向上	(7) 機動的な学校運営 (8) 安全・安心で開かれた学校 (9) 教職員の資質・能力の向上	① 学校目標を共有し、教職員が課題や改善点を意識して、次年度につなぐため、評価育成システムの目標設定、校長の学校運営に関するシート等を活用。 ② 情報の共有化、ＩＣＴを使った業務の省力化のため、校内イントラを全員が一層積極的に活用。 ③ 安全で安心な学校として、緊急事態発生時の危機管理体制・対応について、防災プロジェクトチームを立ち上げ検討。教職員研修等実施。 ④ 生徒相談室の機能の充実、特に問題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導。教育相談体制の周知の充実。 ⑤ 教育活動や学校運営Ｗｅｂページ発信を充実。 ・学級懇談会を行うことにより充実した各学年保護者連絡会等を実施する。 ⑥ 文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開。 ⑦ 新着任教員が新しい職場に早期に適応できるように研修を実施し、教職員の資質向上を図る。 ⑧ 学力向上のため授業力向上をめざす。 ・校内研究授業を開催する。 ・教育産業等の授業研修受講を支援する。（ＩＣＴ活用の更なる発展を図る。） ・学習支援のためのオンライン活用に関する研修の実施	① 学校教育自己診断教員評価「学校経営に教職員の意見が反映されている」50％以上 [64.7％] ② 情報の共有化等研修を1回以上実施 [2回] ③ 大規模災害マニュアルに沿った、実践的研修を実施、備蓄・避難所体制等の検討・計画 [研修1回] ④ 「支援カード」活用強化、ケース会議等開催 ・「教育相談だより」年6回発行 [6回] ・「相談できる先生がいる」75％以上 [78.8％] ⑤ 学校から直接保護者に対する文書を配布するためのメーリングリストの活用 ・「保護者から意見をきく機会を多く持っている」の否定的意見が15％以下 [21.6％] ⑥ 地域住民、府民など公開する行事を年間 3日以上設定する。 [学校説明会2回] ⑦ 三究会(勉強会)の開催(年3回) [5回] ⑧ 授業力向上のための取組み ・校内研究授業 各学期1回 [2回] ・教育産業等の授業研修や他校の研修に年間 50人以上参加 [16人] ・オンライン活用研修 2回実施。	① 意見反映肯定率70.4％ ◎ ② 情報共有化研修1回 ○ ③ 教職員防災研修1回 ○ ④ 教育相談だより発行5回 相談体制肯定率77.9％○ ⑤ 保護者意見否定率15.2％△ ⑥ 学校説明会2回 ○ 公開行事0回 △ ⑦ 三究会5回 ○ 職会内校長研修6回 ⑧ 校内研究授業4回 ○ 校外授業研修20人 △ オンライン活用研修1回△
---------------------------------	--	---	--	--